

青い森林業アカデミーの研修生が国有林内で現地見学会を行いました
(令和3年10月22日)

令和3年10月22日(金曜日)に、蓬田村の広瀬山国有林において、「青い森林業アカデミー」の研修生8人が、伐採と造林の一貫作業システムの現地見学を行いました。

現地見学会では、有限会社 前田林業の担当者から「木材生産の作業効率の向上と造林コストを意識して実践し、コンテナ苗による伐採後の植栽までを一貫して行う作業システムの定着に取り組んでいる」と説明があり、研修生は担当者の話を熱心に聞いていました。研修生からは、「フォワーダに玉切りした材をグラップルで荷台に積んで土場まで運ぶ間、グラップルで地寄せするなど、今後に役立つことを教えていただきました」と感想がありました。

また、現地では木の繊維についての説明と、並行して2班に分かれてプロセッサの操作体験が行われました。

研修生からは、「プロセッサを操作したことがなかったので貴重な体験になりました」との感想が聞かれました。



木の繊維についての説明



プロセッサの操作体験

最後に前田林業の担当者からディブルを使用して植える際のコツなどについて説明を受け、秋晴れの中、ヒバのコンテナ苗を丁寧に植えていました。



ヒバのコンテナ苗植付

今回の伐採と造林の一貫作業システムの現地見学会を通じて、知識と技術を身に付け、青森の林業に貢献する人材になることを願っています。